



矢倉かつお NEWS

Yakura katsuo news

Vol.1 平成 25 年 11 月号 発行 公明党参議院埼玉選挙区第 1 総支部



皆様のご支援により、初登院しました！



8月2日、召集された第184回国会に初登院いたしました。「矢倉かつお」に対していただいた、60万票の重みを感じ、身の引き締まる思いでした。あらためて今夏の猛暑における党员・支持者の皆さまの支持拡大に、厚く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

今回の参議院選挙では、新人7名が当選し、公明党参議院議員は、20名となりました。衆議院議員と合わせ総勢51名。そのうち何と3割が30歳代、40歳代前半です。次代を担う「青年公明党」の即戦力として、先輩議員に教わりながら、呼吸を合わせ、国会での論戦や党勢拡大へ向けて一心不乱に邁進していく所存です。

竜巻被害の現場へ急行

9月2日、越谷市・松伏町で発生した竜巻の被害状況を確認するため、夕刻に現地へ急行。電柱が根こそぎ倒され、家の壁・ガラス・屋根などが散乱している状況に自然の猛威を肌で感じました。被災された皆さまに心からお見舞いを申し上げます。居住されている自治体により、被災者に対する国の支援金支給に差が生じる実態も把握しました。是正に向けて頑張ります。(写真は3日、国会議員・県会議員らと)



文教科学委員会にて初質問

11月5日、初質問させていただきました。「私立学校における、いじめの問題」と2020年に開催が決定した「東京オリンピック・パラリンピック」について質問。いじめの問題では、実際にいじめに遭い、現在も学校に登校できないお子さんの母親からの切実な声を通し、「相談する窓口が公立学校に比べて少ない」と指摘。「国が積極的に取り組むというメッセージを発する必要がある」と質問し、文部科学省と私学行政など関係部署の緊密な連携を求めました。これに対し下村文科相は、いじめ防止対策推進法に基づく国の基本方針を踏まえ、関係部署が連携して、私立学校がいじめ問題に対応する都道府県の主管部局への指導・支援を行うと答えました。



また、東京オリンピック・パラリンピックの質問では、IOC総会における佐藤真海さんのプレゼンテーションを紹介しつつ、パラリンピックの東京開催の意義を強調。「開催の意味は未来を担う子供たちが、パラリンピック競技を間近で見て、障がい乗り越える力強さを感じることで、困難に立ち向かう力を培っていく教育的意義。」

もう1つは、「障がいをお持ちであっても、健常者と同じように不自由なく、生活できる社会こそが当たり前であり大事である、との理念を社会に根付かせることであり、そのためにも、東京パラリンピックのより一層の振興を」と強調。

これに対し下村文科相は、オリンピック・パラリンピックが一体感を持ち、パラリンピアン（パラリンピック競技大会に出場した経験のある選手や、元選手の総称）による子供たちとの交流やイベントの工夫、さらに教材等の作成によってパラリンピックの価値、精神を子供たちに体得できる取り組みを一層進めていくとの答弁がありました。

県内を東奔西走。各地でお世話になりました！



参議院議員として、各地でさまざまな会合・イベント・視察に参加させていただきました。【左】関越道・坂戸スマートIC開通式典での挨拶。【中】各地で開催されている党員会（写真は鴻巣支部）。【右】桶川市内での企業視察。